



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月4日

上場会社名 東邦化学工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4409 URL https://toho-chem.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理本部長 (氏名) 井上 豊 TEL 03-5550-3735

四半期報告書提出予定日 2020年8月12日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	9,109	△10.6	△150	—	△312	—	△277	—
2020年3月期第1四半期	10,194	△7.5	382	△17.5	315	△17.5	232	3.2

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 8百万円 (△96.1%) 2020年3月期第1四半期 211百万円 (△19.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△12.99	—
2020年3月期第1四半期	10.89	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	53,602	13,267	24.6
2020年3月期	53,298	13,580	25.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 13,198百万円 2020年3月期 13,509百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期 (予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	19,400	△7.5	290	△69.3	80	△88.0	△20	—	△0.94
通期	39,500	△6.3	1,200	△40.2	900	△46.4	550	△60.1	25.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日 (2020年8月4日) 公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：有

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	21,350,000株	2020年3月期	21,350,000株
2021年3月期1Q	21,990株	2020年3月期	21,990株
2021年3月期1Q	21,328,010株	2020年3月期1Q	21,328,055株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴う経済活動、社会活動の停滞によって景気が急速に悪化し、極めて厳しい状況となりました。足許では経済活動のレベルが段階的に引き上げられていますが、海外では未だ新型コロナウイルスが猛威を振るう地域が多いことや、国内における感染拡大第2波への懸念、米中対立の長期化等により、今後も引き続き不透明な環境が続くことが予想されます。

化学業界においても、米中貿易摩擦の影響による需要減退に新型コロナウイルスの影響が重なり、事業環境は一段と悪化しました。国内エチレンプラントの稼働率は好不況の目安となる9割を下回る局面も見られるなど、生産設備の稼働減が続きまして。

このような厳しい経営環境下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、自動車市場向け製品をはじめ、幅広い分野にわたって需要が落ち込み、前年同期比1,084百万円、10.6%減収の9,109百万円と、大幅な減収となりました。

損益面につきましては、大幅な売上減少による収益の悪化に加え、原材料価格の急落に伴う5億円を上回る多額の在庫評価損の発生や会計方針の変更に伴う損失影響(87百万円)の結果、営業損失150百万円(前年同期は営業利益382百万円)、さらに為替差損(140百万円)の発生もあり経常損失312百万円(前年同期は経常利益315百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失277百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益232百万円)と、赤字計上を余儀なくされました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

## (界面活性剤)

香粧原料は、洗剤用向けの一般洗浄剤が大ロユーザーサイドの在庫調整の影響により減収となりました。プラスチック用添加剤は、主力の帯電防止剤が振るわず、減収となりました。土木建築用薬剤は、コンクリート用関連薬剤が振るわず減収となりました。農薬助剤は、国内外ともに販売が好調で大幅な増収となりました。繊維助剤は、中国での販売は堅調を維持したものの国内販売が振るわず減収となりました。紙パルプ用薬剤は、消泡剤や脱墨剤が低調で大幅な減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比567百万円、10.0%減収の5,109百万円となり、セグメント利益は、前年同期比261百万円減益の20百万円となりました。なお、セグメント利益の中には在庫評価損299百万円が含まれております。

## (樹脂)

石油樹脂は、大ロユーザーでの生産調整を主因に大幅な減収となりました。合成樹脂は、冷蔵機器用断熱ウレタンフォーム原液が不振で、大幅な減収となりました。樹脂エマルションは、フローアポリッシュ用等が低調で減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比163百万円、20.5%減収の630百万円となり、セグメント損失は、61百万円(前年同期は13百万円の利益)となりました。なお、セグメント損失の中には在庫評価損19百万円が含まれております。

## (化成品)

合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は、国内外ともに自動車関連需要が大幅に落ち込み、3割を超える大幅な減収となりました。金属加工油剤は、水溶性切削油剤の大ロユーザー向け販売が低調で減収となりました。石油添加剤は、海外向け販売が振るわず大幅な減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比335百万円、25.8%減収の966百万円となり、セグメント損失は、32百万円(前年同期は24百万円の利益)となりました。なお、セグメント損失の中には在庫評価損52百万円が含まれております。

## (スペシャリティケミカル)

溶剤は、プレーキ液基剤の販売の落ち込みを主因に減収となりました。電子情報産業用の微細加工用樹脂は、半導体関連の販売が堅調で増収となりました。アクリレートは、数量は微増となったものの、中国での販売が多いことから為替影響等により減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比14百万円、0.6%減収の2,386百万円となり、セグメント損失は、61百万円(前年同期は30百万円の利益)となりました。なお、セグメント損失の中には在庫評価損143百万円が含まれております。

なお、上記の各セグメント利益又は損失の前年同期比の数値は、後記P. 9（セグメント情報）「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の表における「報告セグメント」の比較情報です。

その他に、各セグメントに帰属しない調整額（棚卸資産の調整額等）が△5百万円（前年同期は37百万円）あります。

## （2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、53,602百万円と前期末比303百万円の増加となりました。その内訳は、流動資産が1,062百万円減少の28,480百万円、固定資産が1,366百万円増加の25,121百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が190百万円の増加、受取手形及び売掛金が1,056百万円の減少、たな卸資産が234百万円の減少です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が994百万円の増加、投資その他の資産が381百万円の増加です。

一方、負債合計は40,335百万円と前期末比616百万円の増加となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が1,048百万円の減少、短期借入金が882百万円の増加、未払法人税等が269百万円の減少、賞与引当金が308百万円の減少、設備関係支払手形、未払金及び預り金の増加を主因とするその他（流動負債）が975百万円の増加、長期借入金が181百万円の増加、リース債務の増加を主因とするその他（固定負債）が176百万円の増加です。

純資産は、13,267百万円と前期末比313百万円の減少となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払いと親会社株主に帰属する四半期純損失により596百万円の減少、その他の包括利益累計額が286百万円の増加です。

その結果、自己資本比率は24.6%となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、2020年5月14日の「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」から修正しております。詳細につきましては、2020年8月4日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,001	9,192
受取手形及び売掛金	9,992	8,935
たな卸資産	9,981	9,746
その他	568	610
貸倒引当金	△0	△4
流動資産合計	29,543	28,480
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,992	8,061
機械装置及び運搬具(純額)	2,343	2,658
土地	3,145	3,145
建設仮勘定	2,471	3,081
その他(純額)	2,410	2,411
有形固定資産合計	18,364	19,358
無形固定資産	1,119	1,109
投資その他の資産	4,271	4,652
固定資産合計	23,755	25,121
資産合計	53,298	53,602

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,326	6,277
短期借入金	6,491	7,373
1年内償還予定の社債	1,920	1,920
未払法人税等	278	9
賞与引当金	521	212
その他	2,974	3,949
流動負債合計	19,511	19,742
固定負債		
社債	2,700	2,700
長期借入金	10,131	10,313
退職給付に係る負債	5,443	5,471
資産除去債務	63	64
その他	1,867	2,043
固定負債合計	20,206	20,592
負債合計	39,718	40,335
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	9,555	8,958
自己株式	△6	△6
株主資本合計	12,201	11,604
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	875	1,209
為替換算調整勘定	800	744
退職給付に係る調整累計額	△367	△359
その他の包括利益累計額合計	1,308	1,594
非支配株主持分	71	68
純資産合計	13,580	13,267
負債純資産合計	53,298	53,602

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	10,194	9,109
売上原価	8,496	7,978
売上総利益	1,698	1,131
販売費及び一般管理費	1,315	1,281
営業利益又は営業損失(△)	382	△150
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	36	36
物品売却益	10	7
その他	9	16
営業外収益合計	57	63
営業外費用		
支払利息	48	57
為替差損	17	140
損害賠償金	33	—
その他	25	27
営業外費用合計	124	225
経常利益又は経常損失(△)	315	△312
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
固定資産廃棄損	2	11
特別損失合計	2	11
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	314	△323
法人税等	82	△47
四半期純利益又は四半期純損失(△)	232	△276
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	232	△277



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	232	△276
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	333
為替換算調整勘定	46	△56
退職給付に係る調整額	5	8
その他の包括利益合計	△20	284
四半期包括利益	211	8
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	211	9
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(たな卸資産の評価方法の変更)

従来、製品は総平均法に基づく原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より移動平均法に基づく原価法に変更しております。

この変更は、より迅速かつ適時な期間損益計算を行うことを目的とした新基幹システムの導入を契機として評価方法の見直しを行ったものであります。

なお、過去の連結会計年度について、移動平均法による計算を行うことが実務上不可能であり、遡及適用した場合の累積的影響額を算定することができないため、前連結会計年度末の帳簿価額を当連結会計年度の期首残高として計算しております。

この変更により、従来の方と比べて、当第1四半期連結会計年度末のたな卸資産の中の製品が87百万円減少しており、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ87百万円増加しております。

また、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響により、経済環境は急激に悪化しており、当社グループにつきましても顧客からの受注の減少が顕著になっております。新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期は未だ不透明であり、その影響を予測することが非常に難しい状況にあります。当社グループにおいては、2021年3月期の第2四半期から徐々に売上高は回復に向かうものの、下期も影響が残るものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性の見積りや固定資産の減損の判定を行っております。

なお、将来における実績値に基づく結果が、これらの見積り及び仮定と異なる可能性があります。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	5,677	793	1,302	2,400	10,174	20	10,194	—	10,194
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	49	49	△49	—
計	5,677	793	1,302	2,400	10,174	69	10,243	△49	10,194
セグメント利益 又は損失(△)	282	13	24	30	350	△5	344	37	382

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額37百万円には、棚卸資産の調整額30百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	5,109	630	966	2,386	9,093	16	9,109	—	9,109
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	47	47	△47	—
計	5,109	630	966	2,386	9,093	64	9,157	△47	9,109
セグメント利益 又は損失(△)	20	△61	△32	△61	△134	△10	△144	△5	△150

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5百万円には、棚卸資産の調整額16百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業損失と調整を行っております。

4. 会計方針の変更(たな卸資産の評価方法の変更)による影響額87百万円の内、報告セグメントのセグメント利益又はセグメント損失(△)に△155百万円が含まれており、調整額のセグメント利益又はセグメント損失(△)に67百万円が含まれております。